

ならは百年祭

ならは百年祭

ならは百年祭

立ち上げに込めた思い

地域に愛され、守られる、

100年後も受け継がれる

伝統的な祭を！

ならは百年祭の名称

第1回ならは百年祭地域プロジェクト

チーム全体会議にて、

数あるアイデアの中から決定。



はじまり

この町の財産は、一人ひとりの"ひと"だと思っています。
その“ひと”が主体となり、活きるまちづくりのプロジェクトとして
立ち上げたのが、ならは百年祭です。

世代や背景などの違いを越えて、
心からひとつになれるものとして「祭」を選びました。
この祭をつくることにより、
多くの人が出会い、想いを語り合い、交わり合うことこそが、
とても重要で、そこから生まれるものは唯一無二であると考えます。

震災を機に、人とのつながりや文化・伝統など、
長い年月をかけなければ紡ぐことのできない
「目に見えないもの」を、続けることができなくなってしまいました。

各地域で受け継がれる盆踊りの再開などの動きを大切にしつつ、
今だからこそ始めることができる新たな伝統をつくりたい。

この祭を通じて、地域の力を育て、未来の楳葉をつなぐことができる。
と考えています。

叶えたい夢

- ・ 「檜葉と言え、百年祭！」と
檜葉町の代名詞になる祭にする。
 - ・ 檜葉の子どもたちが大人になったとき、
「この日だけは帰りたい」と思う祭にする。
 - ・ この地に関わる誰もが受け入れられ、
共存できる祭にする。
- ▷ より多くの地域の方々を巻き込み、
地域のひとの中で受け継がれる祭りにする。

イベント概要

日 時：令和5年8月19日(土) 15:00～20:30(予定)

場 所：笑ふるタウンならは及び周辺区域

集客目標：2,000人

主 催：ならは百年祭をつくる会
(事務局：一般社団法人ならはみらい)

予 算：協賛金＋出店料＋ならはみらい事業費
※一部補助金を充当する可能性あり

情報発信：各種専用SNS・事務局（ならはみらい）HP

企画(案)

■こどもみこし

檜葉町の子どもたちと一緒にみこしを3基制作。

当日は自ら担ぎ、練り歩きます。

その他、子どもたちによる出店も準備中です。



■やぐら踊り

受け継がれてきた祭の担い手の方々に集まっていたいただき、
町内で最も大きいやぐら踊りをおこなう。

町内の祭・伝統がより一層大切にされ、発展することを目的としたい。新たな担い手づくり・誰もが参加できる祭のため、初心者によるお囃子練習会も開催。



企画(案)

■総踊り (仮)

世代や立場を超えて誰もが一つになれる場面をつくる。
檜葉音頭では、地域の方々に保存チーム(仮)として見本と
なっておどっていただく。その他、ゲストパフォーマンスと
のコラボ、祭の締めはこの地への想いを表現する「地固締め」
をおこなう。

■地固締め

自分達が生きているこの地への想いを表現した、
祭の締めにみんなで唱和する

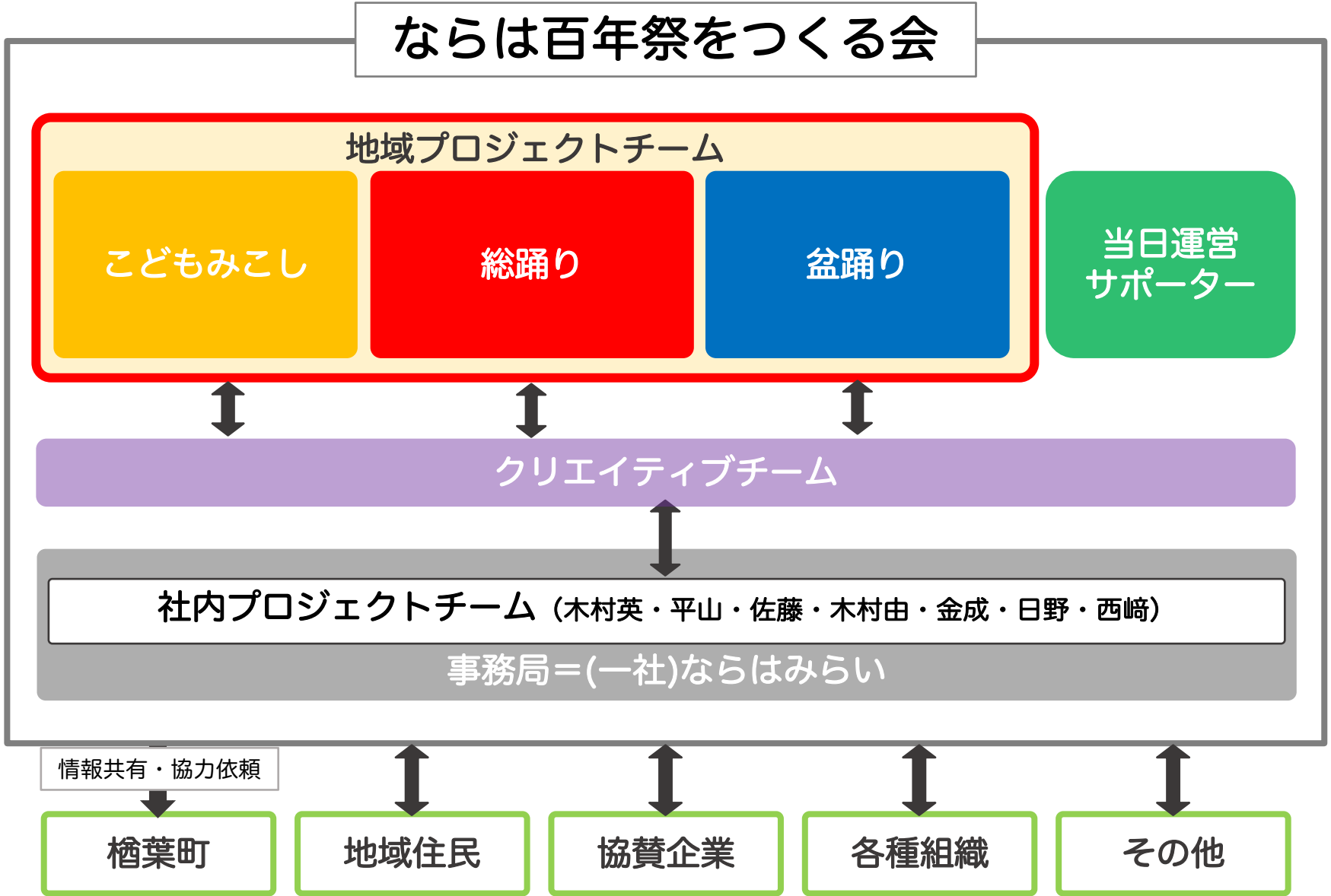
「これまでのこの地に！

今を生きるこの地に！

これからのこの地に！」



体制



ならは百年祭をつくる会

1. より地域に根ざした祭に育てていくために、地域主体の体制で実施。
2. つくり手から「自分達の祭りだ！」と言えるように。
3. 会長・副会長を含めた役員を選出。

地域プロジェクトチーム

1. イベントの企画に関する検討・決定
2. イベント準備・当日の運営・次年以降への引継ぎ
3. 地域住民・組織の巻き込み
4. その他

当日サポーター

1. 当日の運営をボランティアでサポート

クリエイティブチーム

チラシやポスター、動画や写真などの制作を担うクリエイターの人たちを中心としたチームを、百年祭をより良くしていくために発足。

[制作]

1. 広報・PRに関わること
2. 記録・アーカイブに関わること
3. 制作に対して必要なリサーチ



ならは百年祭の軸作りやイメージづくりなど、より良い祭となるよう伴走・お手伝いをしてもらう。

ならば百年祭をつくる会

会 長 古市 貴之
副会長 横須賀 直生
監 事 樋田 利治
松本 昌弘

こどもみこし

上野 大樹
横須賀 直生
矢代沙友里
高原啓介
中島悠二
佐藤辰也(事務局)
金成 尚(事務局)

総踊り

松本昌弘
松本光二
矢代 悠
山田美香
木村由香(事務局)
平山将士(事務局)
西崎芽衣(事務局)

盆踊り

古市貴之
樋田利治
高木幹保
松本忠幸
木村英一(事務局)
日野涼音(事務局)

クリエイティブチーム

藤城 光(記録冊子)
松本 淳(動画)

猪狩 喬(写真)
森 亮太(グラフィック)

2回目で目指すもの

昨年の想いを受け継ぎ...

▷ 伝統をつくるための、土台づくり

・ **コンテンツを形作る**

→そこに込められた想い、ストーリー

・ **関わる“ひと”を増やす**

→「自分達の祭だ」と言える人を増やす

・ **百年祭とはなんなのか、を深める**

→多くの人を惹きつける

大切にしたい視点

① 100年後も（その後も）受け継がれているイメージをする。

➔ 地域によってつくられ、受け継がれる祭りをつくること。

① 企画に賛同し思いのある個人の町民を主体とした動きにすること。

② 継続開催を可能とする仕組みづくりを行う。（補助金に頼らない）

② 地域の資源を活かした祭にする。

➔ 最大の魅力は、ひとのちから。地域に関わるひとたちの力を最大限に活用し、輝けるシーンをつくる。伝統・歴史、産品、地区（行政区）、産業、サークル、ボランティア…様々な観点で考えてみる。

③ 多様な人が参加できる祭にするためにはどんな仕掛けが必要か。

➔ こども/お年寄り/障がい者/外国人/企業で働く方/新しく移り住んできた人も。当日地域外から参加する人も。

より多くの人に参加できる祭だからこそ、担い手が現れ、受け継がれていく。

④ チャレンジする。失敗したら、また考え直せばよい。

➔ 長期的な目線で、祭をつくり上げる。100年続くように、失敗も成功も繰り返し磨き上げていく。守りに入らず、攻めの姿勢で企画をつくろう。

第2 回目の開催となる今年は、 百年続く祭りの土台作りを目的に、
こどもみこしや、 やぐら 踊り、 総踊り等、
祭のメインコンテンツを、
より多くの地域の方々を巻き込みながら形づくることを
大切にしていきたいと考えています。
地域に愛され、守られる、
100年後も受け継がれる伝統的な祭をつくるため、
ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ならば百年祭をつくる会一同